



まがたま

一人一人が輝く学校・地域と共に進む学校

令和3年 2月12日

豊玉中学校だより 特別号

E-mail arai.hideki@nerima-tyky.ed.jp

URL <http://www.toyotamaj.nerima-tyky.ed.jp>

教育調査 結果のご報告

梅のつばみも膨らみ始め、春の兆しを感じる頃となりました。さて、平成2年度学校経営計画の具体的方策に基づき、生徒と保護者の皆様及び教職員の教育評価調査結果をご報告いたします。

質問番号

対象	質問項目	評価
----	------	----

評価は、教育調査の平均値で、最高値5.0、最低値1.0、到達目標は4.0です。3.5未満を重要課題と考えます。生徒欄のみ1年・2年・3年の順で数値を表記します。

とてもそう思う	5	どちらかといえばそう思う	4
どちらかといえばそう思わない	2	そう思わない	1

教育調査回収率

生徒	1年	2年	3年	保護者	教員
	93%	95%	85%	25%	100%

学習指導

方策1：授業規律の徹底とリレーションづくりにより、話し合い活動のための土壌をつくる。

質問1

生徒	先生たちは、ピア・サポートプログラム等によって授業内での望ましい人間関係づくりを行い、生徒が授業中に誰とでも協力して学ぶことができるようにしている。	4.5 4.6 3.5
保護者	学校は、授業内での望ましい人間関係づくりを行い、お子様が授業中に誰とでも協力して学ぶことができるようにしている。	3.8
教員	学校は、ピア・サポートプログラム等によって授業内での望ましい人間関係づくりを行い、生徒が授業中に誰とでも協力して学ぶことができるようにしている。	4.4

改善策1

生徒へ向けて

- ・指導者側で協力すること、仲良くすることの目的・価値の共通認識を図り、様々な場面で生徒に語り続け、より良い人間関係づくりの価値を浸透させる。
- ・ピア・サポートプログラムを全校体制で計画的に行い、ピア・サポーター（有志のボランティア）を募る。

保護者へ向けて

- ・上記の目的・価値と合わせて、各学年のリレーションづくりの取組を、各種お便りやHP等で発信する。
- ・保護者会等で、実際にリレーションづくりや対話活動を体験してもらう。

方策2：学力向上プロジェクトの拡充・展開期と位置付け、4人組を軸に少人数グループ学習等を工夫する。

質問2

生徒	先生たちは、4人組学習活動を中心に、4人の役割を明確にしたり、発表する順番を決めたりして、少人数グループ活動を工夫している。	4.7 4.4 4.5
保護者	学校は、4人組学習活動を中心に、4人の役割を明確にしたり、発表する順番を決めたりして、少人数グループ活動を工夫している。	4.2
教員	学校は、4人組学習活動を中心に、4人の役割を明確にしたり、発表する順番を決めたりして、少人数グループ活動を工夫している。	4.8

成果2

- ・生徒の意識に、「対話的な学びには、リレーションづくりが大切」だと根付いてきた。
- ・記述式のアンケート結果から、仲間との対話が増えたことで、学習へのモチベーションが高まったことを読み取ることができた。



方策3：課題解決を中心にした授業改善を通して、自己表現力、プレゼンテーション能力の伸長を図る。

質問3

生徒	あなたは、4人組学習活動等を通して、自分の考えを発表する力や、学習したことを説明する力が身に付いている。	4.1 3.6 3.7
保護者	お子様には、4人組学習活動等を通して、自分の考えを発表する力や、学習したことを説明する力が身に付いてきている。	3.5
教員	生徒たちには、4人組学習活動等を通して、自分の考えを発表する力や、学習したことを説明する力が身に付いている。	4.1

改善策3

生徒へ向けて

- ・思考力や表現力の向上につながる取組課題を単元で設定し、表現する機会を多く設ける。
- ・根拠を明確にして自分の考えを構築するトレーニングを積み、全員が話し合いに参加できるようにする。

保護者へ向けて

- ・各教科の授業、総合的な学習の時間等で発表活動を行う際、参観を積極的に呼びかけ、生徒の活動する姿を見てもらう。
- ・配布タブレット型PCに発表時の動画を送信し、各家庭で閲覧できるようにする。

方策4：各教科で家庭学習を奨励し、自学自習の習慣を身に付けさせる。

質問4

生徒	先生は、次の授業で学ぶことや何を準備してくれるか教えてくれるので、あなたは、次の授業のために家で勉強することができる。	3.5 3.4 2.8
保護者	学校は、次の授業で学ぶことや、何を準備してくれるか教えているので、お子様は、次の授業のために家庭で勉強をしている。	2.8
教員	あなたは生徒に、次の授業で学ぶことや何を準備してくれるか教えているので、生徒は次の授業のために家で勉強してくる。	2.5

改善策4

生徒へ向けて

- ・「次の授業の目標（課題）」を事前に示し、身に付ける力や学習内容の見通しをもたせるようにする。
- ・上記の課題を工夫し、調べたくなるような課題、調べないと解決にたどり着けない課題等を設定する。
- ・事前に準備をしてきたことが評価されるような活動や、評価方法を提示する。



方策5：人に対する思いやりや礼儀、他者との違いを理解し、認め合いながら生きる生徒を育てる。

質問5

生徒	先生たちは、人に対する思いやりや礼儀、他者との違いを理解し、認め合いながら生きることの大切さを教えている。	4.4 4.0 3.2
保護者	学校はお子様に、人に対する思いやりや礼儀、他者との違いを理解し認め合いながら生きることの大切さを教えている。	3.6
教員	あなたは生徒に、人に対する思いやりや礼儀、他者との違いを理解し、認め合いながら生きることの大切さを教えている。	4.4

成果5

- ・リレーションづくりに向けての、ピア・サポートプログラムが最も効果的なのは、入学直後と言われている通り、1学年で最も良い効果が認められた。

改善策5

生徒へ向けて

- ・ピア・サポートを全校体制で計画的に行い、ピア・サポーター（有志のボランティア）を募る。
- ・「道徳の時間」の充実を図り、多様な価値観を認め合えるような対話的な授業を展開する。

保護者へ向けて

- ・各学年のリレーションづくりの取組や道徳の様子、生徒の意見等を、各種お便りやHP等で発信する。
- ・保護者会等で、実際にリレーションづくりや対話活動を体験してもらう。

方策6：夢や目標をもち、困難を乗り越え、幸福な人生の創り手となっていけるように支援を行う。

質問6

生徒	先生たちは、目標や将来の夢をもつことの素晴しさを、それに向かって挑戦することの大切さを教えている。	4.0 3.9 2.8
保護者	学校はお子様に、目標や将来の夢をもつことの素晴しさを、それに向かって挑戦することの大切さを教えている。	3.8
教員	あなたは生徒に、目標や将来の夢をもつことの素晴しさを、それに向かって挑戦することの大切さを教えている。	4.0

改善策6

生徒へ向けて

- ・夢手帳等を活用し、目標をもって生活する習慣を身に付ける。
- ・「夢と志をもち、可能性に挑戦するために必要な力を育む教育」のプログラムを作成し、改善したキャリアパスポートを活用しながら、自分のミッションや生き方について考え続けられるような取組を行う。
- ・探究学習を全校体制で行い、社会と自己を結びつけ、将来を模索する機会をつくる。

保護者へ向けて

- ・「夢手帳」や「探究学習」の成果を、各種お便りやHP等で公表する。
- ・上記の成果発表会を実施し、保護者の来校による参加、オンラインによる参加を促す。



方策7：心の教育を活性化するために外部から講師を招き、実体験に基づいた「命の授業」を実施する。

質問7

生徒	あなたは、命の授業（11月14日）を通して、戦争は2度と起こしてはならないことや、人の命の大切さについて学ぶことができた。	4.8 4.5 4.1
保護者	お子様は、命の授業（11月14日）を通して、戦争を2度と起こしてはならないことや、人の命の大切さについて学ぶことができた。	4.4
教員	生徒たちは、命の授業（11月14日）を通して、戦争は2度と起こしてはならないことや、人の命の大切さについて学ぶことができた。	4.7

継続7

- ・実際に戦争を体験された方々が、自分たちのことだけでなく、世界の平和の大切さについて語ってくれる機会は、生徒だけでなく、我々教員にとっても貴重な機会である。可能な限り継続して実施する。
- ・コロナ禍のため、保護者の参加は非常に少なかったにもかかわらず、保護者の評価が高かったのは、話を聞いて心に残った生徒が保護者へ伝えていると考えられる。ほとんどの生徒が真剣に受け止め、感謝の手紙を書いていた。

生徒指導

方策8：規範意識や基本的な生活習慣を確立させる。
(正しい価値観や自立に向けた働きかけ)

質問8

生徒	先生たちは、生徒がルールを守ったり、基本的な生活習慣を身に付けたりするように指導している。	4.6 4.4 3.8
保護者	学校はお子様に、ルールを守ったり、基本的な生活習慣を身に付けたりするように指導している。	4.1
教員	あなたは生徒に、ルールを守ったり、基本的な生活習慣を身に付けたりするように指導している。	4.8

継続8

・全ての教育活動を通して、社会生活の基本的なきまりや規範意識を基に、適切に判断し行動しようとする態度を育成する。



方策9：薬物、防犯、防災、交通安全についての正しい知識を身に付けさせる。

質問9

生徒	先生たちは、薬物乱用防止、防犯、防災、交通安全などの正しい知識を教えている。	4.5 4.5 4.2
保護者	学校はお子様に、薬物乱用防止、防犯、防災、交通安全などの正しい知識を教えている。	4.1
教員	学校は、薬物乱用防止、防犯、防災、交通安全などの正しい知識を教えている。	4.7

継続9

・薬物乱用防止教室や情報モラル教室を実施したり、安全指導や避難訓練を実施したりして、薬物、情報、防犯、防災、交通安全などの正しい知識を身に付けさせる。



方策10：インターネットやSNSについての正しい知識を身に付けさせる。

質問10

生徒	先生たちは、あなたがインターネットやSNSについての正しい知識を身に付けられるように、学活等で指導している。	4.0 4.2 3.2
保護者	学校は、お子様がインターネットやSNSについての正しい知識を身に付けられるように、指導している。	3.7
教員	学校は、生徒がインターネットやSNSについての正しい知識を身に付けられるように、指導している。	4.1

改善策10

生徒へ向けて

- ・予防的生活指導の視点で、日常からインターネットやSNSの活用方法について、社会での出来事等を踏まえながら語る場面を設ける。
- ・ピア・サポートの一環として、非対面での関係づくりについても学習を行う。

保護者へ向けて

- ・SNSやスマートフォンの活用等について、保護者を対象にした「スマホオンライン講座」をZOOM等で実施する。
- ・SNSやスマートフォン使用のルールを作成し、定期的に親子で振り返る場面を意図的に設定する。



方策11：生活アンケートを毎月実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。

質問11

生徒	先生たちは、生活アンケート等を毎月行い、必要があれば相談できるため、安心して学校生活を送ることができる。	4.6 4.2 3.6
保護者	学校は、生活アンケート等を毎月行い、必要があれば生徒が相談できるため、お子様は、安心して学校生活を送ることができる。	3.6
教員	学校は、生活アンケート等を毎月行い、生徒は必要があれば相談できるため、安心して学校生活を送ることができる。	4.7

改善策11

生徒へ向けて

- ・「いじめ撲滅運動」を生徒会を中心に継続的に実施し、いじめは許されない行為であることが共通認識となるようにする。

保護者へ向けて

- ・「学校いじめ防止基本方針」を作成し、HPで公表するとともに、保護者を巻き込んで共に考える機会を設ける。

キャリア教育

方策12：望ましい勤労観や職業観を育む、目的を踏まえた取組内容を工夫する。

質問12

生徒	先生たちは、特別活動や総合的な学習の時間の学習活動を通して、働くことの意義や尊さを教えている。	4.1 4.0 3.2
保護者	学校は、特別活動や総合的な学習の時間の学習活動を通して、お子様に働くことの意義や尊さを教えている。	3.8
教員	学校は、特別活動や総合的な学習の時間の学習活動を通して、働くことの意義や尊さを教えている。	4.2

改善策12

生徒へ向けて

- ・「豊中ハローワーク」や「職場体験学習」等を、活動で終わらせず、目的を明確にして探究学習となるような授業設計を行う。
- ・働くことの意義や職業について語る場面を、日常的に設ける。(世間で話題の出来事に関する職業等)

保護者へ向けて

- ・職業探究の学びの成果を、タブレット型PCを活用して積極的に公表する。

方策 13: 全校集会・朝礼・学年集会の講話を工夫し、人生観や生き方について考えを深めさせる。

質問 13

生徒	先生たちは、あなたが人生観や生き方について考えを深められるように、朝礼や学年集会で話しをしている。	3.9 3.8 3.6
保護者	学校は、お子様が人生観や生き方について考えを深められるように、朝礼や学年集会で話している。	3.4
教員	生徒が人生観や生き方について考えを深められるように、朝礼や学年集会で話しをしている。	3.6

改善策 13

生徒へ向けて

- ・学年朝礼や学年集会では、毎回必ず教師による講話を行う。
- ・全校朝礼や学年朝礼等で講話の内容について、考えたことを夢手帳に書かせるようにする。

保護者へ向けて

- ・朝礼等での話を、各種お便り等を活用して、積極的に発信

方策 14: 学校経営計画に基づき、温かい雰囲気の中で生徒が安心して生活できる学校をつくる。

質問 14

生徒	先生たちは、温かい雰囲気の中で、生徒が安心して生活できる居場所づくりに努めている。	4.7 4.0 3.8
保護者	学校は、温かい雰囲気の中で、お子様が安心して生活できる居場所づくりに努めている。	3.6
教員	学校は、温かい雰囲気の中で、生徒が安心して生活できる居場所づくりに努めている。	4.4

改善策 14

生徒へ向けて

- ・「相手を理解し、理解される」をスローガンに、まずは生徒の思いや気持ちを理解することを共通実践する。
- ・「話し合いのルール」の徹底やリレーションづくりを継続的にを行い、お互いを受け入れる雰囲気づくりを行う。
- ・「学級力向上プロジェクト」を全校体制で行い、生徒同士で皆の居場所づくりが行えるように自治力を高める。

方策 15: 小学校や地域との連携が行えないコロナ禍の中で、校内に目を向け学校のために活動する。

質問 15

生徒	生徒会役員や各種委員は、学校を良くするための活動にしっかりと取り組んでいる。	4.7 4.0 3.8
保護者	生徒会役員や各種委員は、学校を良くするための活動にしっかりと取り組んでいる。	4.2
教員	生徒会役員や各種委員は、学校を良くするための活動にしっかりと取り組んでいる。	4.1

継続 15

- ・コロナ禍の中でスタートした新生徒会は、主体的に活動し、特に1年生は学年の中での役割をしっかりと果たした。

方策 16: コロナ禍の中、限られた条件の中で、行事に真剣に取り組み達成感を得る。

質問 16

生徒	あなたは、体育発表会に真剣に取り組み、達成感を得ることができた。	4.6 4.4 4.3
保護者	お子様は、体育発表会に真剣に取り組み、達成感を得ることができた。	4.4
教員	生徒たちは、体育発表会に真剣に取り組み、達成感を得ることができた。	4.8

継続 16

- ・コロナ禍の中でできることを考え、地域の方の協力を得ながらできることを厳選して行う。



方策 17: 生徒の健康上の課題や配慮事項を掌握し、情報の共有化と全教職員との共通理解を図る。

質問 17

生徒	先生たちは、健康に過ごすことの大切さや、体力を向上させる方法について教えている。	4.4 4.1 3.5
保護者	学校はお子様に、健康に過ごすことの大切さや、体力を向上させる方法について教えている。	3.8
教員	学校は、健康に過ごすことの大切さや、体力を向上させる方法について教えている。	4.6

改善策 17

保護者へ向けて

- ・保健だよりを活用する。配布するだけでなく、HPに載せて生徒や保護者が閲覧できるようにする。

成果

- ピア・サポートプログラムによるリレーションづくり
- ・ふれあい月間の調査で、いじめ件数が0件であった。
- ・チームワーク学習が活発に行われ、生徒の主体性を引き出した。生徒アンケートより
- ・人の意見を聞くとき、その人の考えや気持ちを受け止めようとした生徒の割合の増加。 (7月86% → 12月98%)

課題

学びの連続性

- ・単元の見直しをもたせ、計画的に学習できるようにするために、単元ごとにオリエンテーションを確実にを行う。
- ・毎時間の授業で生徒が身に付ける力を明確にし、適切に評価することで、学習意欲を引き出す。
- ・次の授業で学習する内容、身に付ける力を伝えることで、家庭で何を学習してくれば次の授業に役立つかを明確にする。

キャリア教育の推進

- ・夢と志をもち、可能性に挑戦するために必要な力を育むために、SDGsを活用してキャリア教育の充実を図る。
- ・1学年で活用した「夢手帳」を全学年で導入し、スモールステップで目標や計画を立てたり、実施後に振り返ったり、PDCAサイクルを回す経験を積ませる。